

## 2020年度 在外研究制度 研究員一覧

所属	職名	氏名	種別	期間	主たる研究国	主たる研究機関	研究題目	研究成果報告	備考
文	准教授	齋藤 弘平	長期 (1年)	2020.2.1 ～ 2021.8.31	アメリカ	Tufts University	19世紀末から21世紀にいたるまでの、アメリカ文学・文化全般と医学、心理学、精神医療の関係性について、知識史または文化史の観点からの研究。	研究期間終了後に掲載予定。	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、研究期間の短縮
教育	教授	高木 亜希子	長期 (1年)	2020.8.2 ～ 2021.3.31	アメリカ	ネブラスカ大学リンカーン校	英語科教員養成及び現職教員研修における省察を核とした言語教師の成長モデルの構築	これまで日本で収集してきたデータを分析・考察し、省察を核とした英語科教員養成及び現職教員研修における履修生と教師の学びと成長のプロセスを明らかにし、言語教師の成長の理論モデルを構築の試みを行った。また、科研の研究テーマ「英語教師の実践研究共有コミュニティ—先行研究に基づく理論的枠組みの検討—」に関する理論研究を行い、本テーマに関する論文を刊行した。	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、研究期間の短縮
国際政治経済	教授	橋本 秀美	長期 (1年)	2020.4.29 ～ 2021.3.17	台湾	東華大学	鄭注『礼記』補疏	『礼記』の『典礼』『壇弓』二編を読み、鄭玄注の意図を発掘した。孔穎達が藍本とした皇侃や熊安生は、鄭玄の学術をよく継承していたが、隋の劉焯の後を受けた孔穎達は既に現実を根拠とする経書解釈を基本としていた為、『礼記正義』には鄭玄をよく理解している部分と、無理解な部分とが混在していることも明らかとなった。	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、研究期間の短縮